

2023年12月22日発行

# アグリ筑西 2024年1月号

2023年もお世話になりました。  
どうぞよいお年をお迎えください。

県西農林事務所 経営・普及部門  
(筑西地域農業改良普及センター)  
筑西地域農業改良推進協議会 発行  
Tel : 0296(24)9206  
Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！↑

## スマート農業技術研修会を開催しました！

筑西普及センター管内でのスマート農業の取組は、普通作部門においてドローン等を中心に87経営体が導入しており、年々増加しています。そこで、当普及センターでは、12月15日（金）に、茨城県農業総合センターと共催で「スマート農業技術研修会」を開催し、普通作物生産者、県関係者等およそ60名が参加しました。

本研修会は、普通作経営の大規模化に伴い労力不足・熟練労働者不足等が課題となる中、スマート農業技術の実演や導入事例を紹介することで、省力・低コスト化による経営規模拡大、農地集積・集約に資することを目的として企画しました。

研修会では、筑西市の現地ほ場において、トラクタ自動操舵システムによる耕起の実演を行ったほか、筑西合同庁舎において、メーカー及び普及センター等から自動操舵システムや栽培管理システムの機能、ロボット田植え機の導入事例等について紹介しました。参加者からは、各スマート農機の機能の詳細や、有効な活用方法等について活発な質疑があり、スマート農業技術への関心の高さが伺えました。



## 部会全体の収量向上に向けた取り組み ～抑制トマト成功事例報告会～

今年は、栽培期間の記録的な猛暑、定植後の降水量不足の影響により、着果不良や裂果、果実の小玉化、オオタバコガによる食害が多く発生したことで、収量が昨年に比べて激減する厳しい作になりました。この状況を踏まえJA北つくば東部とまと選果場部会では、12月8日（金）に「抑制トマト成功事例報告会」を開催し、収量向上に向けて部会員約30名で意見交換を行いました。

報告会の中では、今年の厳しい栽培環境下でも安定して栽培された生産者から、育苗方法、定植・ホルモン処理のポイント、裂果対策、暑熱対策などの栽培管理について説明がありました。また、メーカー担当者からは、ネコブセンチュウ対策や栽培管理のポイントについて情報提供がありました。今後は、次作の収量増加に向けて、普及センター等の関係機関と連携し、暑熱対策の検討を進めていきます。



## 若手イチゴ生産者研修会を開催しました！

11月21日（火）に、第3回若手イチゴ生産者研修会を開催し、管内イチゴ生産者10名が参加しました。

研修会では、普及センターから厳寒期（12～2月）の温度管理や樹勢維持の方法について情報提供を行いました。また、地域の先輩生産者である中尾宏史氏のほ場を見学しながら、温度管理の難しい連棟ハウスでの栽培管理についてお話を伺いました。その後は、鷺谷一雄氏のほ場へ移動し、昨年環境データを基に厳寒期における単棟ハウスの栽培管理についてお話を伺いました。参加者からは、気温や湿度、CO<sub>2</sub>濃度の管理について、今後活用できる知識として高い評価をいただきました。



次回は、第4回「暖候期の管理」の開催（1月下旬ごろ）を予定しています。管内でイチゴを生産する若手の方で参加を希望する場合は、当普及センターまでお問合せください。

## キュウリべと病に注意しましょう！

べと病の病斑が多数形成されると、生育・着果が不良となり、減収につながります。また、蔓延すると薬剤防除の効果が劣るので、発生させないための湿度管理や予防散布に留意しましょう。

### 【発生生態】

- ・上～中位の比較的新しい葉に発生。
- ・葉脈に囲まれた多角形の黄色の病斑を生じる。
- ・感染は15～28℃の温度域で起こり、最適は20～25℃である。
- ・曇雨天が続いたりハウス内が多湿気味になると急増。また、肥切れや草勢の衰えも発病を助長する。

### 【対策】

- ・発病前から7～10日間隔で予防散布を行う。また、耐性菌の発達を防ぐために系統の異なる農薬をローテーション散布する。
- ・通風に心がけ、多湿にならないように管理する。



出典：茨城県病害虫防除所

## 降雪に備えた対策をしましょう！

降雪による被害を出さないために、以下のポイントを押さえて事前の準備をしましょう。

・降雪が予想される場合は、ハウスの外張り被覆資材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物がないかを事前に点検する（たるみや破れがある場合は、補修しておく）。防風ネットや外部遮光資材等は忘れずに撤去する。

・暖房機を利用している場合には、燃油を満たしておくとともに、電源、配線等についても、正常に機能するか確認を行う。

・特に多い降雪量が予想される場合、応急補強用の耐雪支柱を取りつける（図）。耐雪支柱を使用する場合は、主骨組材の棟部、及び棟部を中心に対称となる位置に取り付けると効果的。

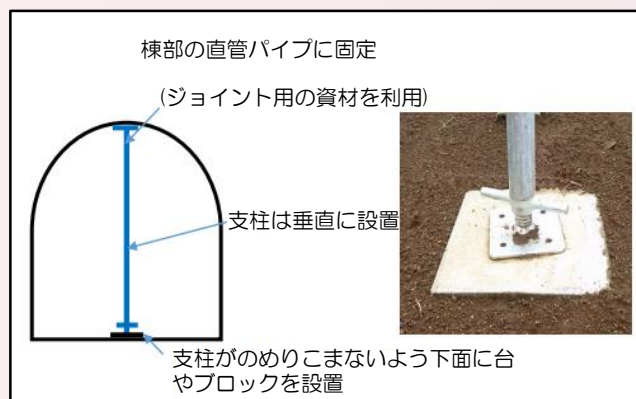


図 耐雪支柱の設置方法（設置目安：約3m間隔）  
茨城県農業総合センター資料から引用。  
さらに詳しい内容は、令和4年12月23日掲載「降雪に対する技術対策」をご覧ください ▶

